

業種ごとにばらつきはあるものの、今期は全業種が改善傾向を示す！

— 2017年10月～12月期 中小企業景況調査報告書概要 —

日銀が昨年12月15日に発表した12月の企業短期経済観測調査（短観）によると、企業の景況感を示す業況判断指数（D・I）は、大企業・製造業でプラス25と、前回より3ポイント改善し、5四半期連続して改善している。海外経済が好調で生産、輸出が伸び、2006年12月以来11年ぶりの高水準となった。大企業・非製造業の業況判断指数は、プラス23から横ばいとなっている。天候不順や人手不足によるコスト増などの影響で対個人サービスや宿泊などが悪化している。

中小企業・製造業の業況判断指数は前回のプラス10から5ポイント改善し、プラス15となった。中小企業・非製造業も前回のプラス8から1ポイント改善してプラス9となっており、どちらも6四半期連続で改善しており、好調を維持している。

3か月後の先行きの見通し（2018年3月予測）は、大企業・製造業が6ポイント悪化のプラス19、大企業・非製造業も3ポイント悪化のプラス20と予測。人手不足による収益悪化や海外情勢への不安があるとみられる。中小企業・製造業が今期より4ポイント悪化しプラス11、中小企業・非製造業も4ポイント悪化しプラス5と予測。大企業同様、先行きに不安を感じ慎重な見方が多くなっている。

内閣府が昨年12月21日に発表した12月の月例経済報告においては、国内景気は「景気は、緩やかな回復基調が続いている」のまま据え置いた。これで6月に景気判断を引き上げて以降7ヶ月連続して同じ表現となっている。12月の月例経済報告では、生産、設備投資、輸入の3項目を上

方修正している。生産、設備投資はともに11月まで「持ち直している」と表現していたが、「緩やかに増加している」に判断を前進させている。

商工会地域の景況調査においては、今期（2017年10月～12月）の業況に関するD・I値は、製造業が前期より1.4ポイント改善しマイナス14.8、建設業は12.4ポイント改善しマイナス13.7、小売業は0.4ポイント改善しマイナス42.1、サービス業も0.1ポイント改善しマイナス17.6となっている。前期は、製造業のみが改善していたが、今期は全業種が改善している。ただし、改善幅には大きな差があり、手放しで喜ぶことはできない。

来期（2018年1月～3月期）の業況予測については、製造業が今期実績よりも11.6ポイントと二桁の改善幅を示してマイナス3.2になると予想している。建設業は今期実績より21.3ポイントと大幅に悪化しマイナス35.0、小売業は7.0ポイント改善しマイナス35.1、サービス業も今期より5.1ポイント改善しマイナス12.5となっている。建設業の来期予測の大幅な悪化が懸念されるとともに、業種間の格差も気になるところである。

商工会地域の景況感は、前期において製造業以外が悪化に転じて心配されたが、今期は前々期と同様に全業種が改善傾向となっている。来期予測は建設業の悪化が気になるが、製造業、小売業、建設業は今期の流れを維持して、しっかりと改善傾向を示してくれることを期待する。

（中小企業診断士 橋本大輔）

業界天気動向図

項目	売上				採算（経常利益）				資金繰り			
	1 H 5 3年	4 6	7 9	10 12	1 H 5 3年	4 6	7 9	10 12	1 H 5 3年	4 6	7 9	10 12
製造業												
建設業												
小売業												
サービス業												

各項目については次により表示した。

区分	増加 好転	やや増加 やや好転	横ばい	やや減少 やや悪化	減少 悪化	大幅に減少 非常に悪化
	D・I値(前年同期比)	20.1～	5.1～20.0	5.0～△5.0	△5.1～△20.0	△20.1～△35.0
表示	快晴	晴れ	曇り	小雨	雨	豪雨

今期直面している経営上の問題点需要の停滞

（数値の左は前期構成比、右は当期割合を%で記す）

業種	1位		2位		3位		4位			
製造業	1位にあげる問題点 需要の停滞		2位 熟練技術者の確保難		3位 生産設備の不足・老朽化、従業員の確保難		4位 製品ニーズの変化、原材料の不足、人件費の増加			
	前期	今期	前期	今期	前期	今期	前期	今期		
	28.1	21.9	6.2	15.6	—	9.4	—	6.2		
建設業	1位 官公需要の停滞		2位 請負単価の低下、上昇難、民間需要の停滞		3位 材料価格の上昇、下請単価の上昇、熟練技術者の確保難、その他		4位			
	前期	今期	前期	今期	前期	今期	前期	今期		
	36.8	23.8	10.5	14.3	—	9.5	—	—		
小売業	1位 購買力の他地域への流出		2位 消費者ニーズの変化		3位 仕入単価の上昇、需要の停滞		4位			
	前期	今期	前期	今期	前期	今期	前期	今期		
	19.5	21.1	7.3	15.8	—	13.2	14.6	10.5		
サービス業	1位 需要の停滞		2位 利用者ニーズの変化		3位 従業員の確保難		4位 利用料金の低下、上昇難		5位 材料等仕入単価の上昇	
	前期	今期	前期	今期	前期	今期	前期	今期	前期	今期
	31.1	20.0	8.9	17.8	11.1	13.3	6.7	11.1	2.2	8.9